

くすりばこ



57. くすりの副作用について

くすりの説明書には副作用について書かれていますが、全ての患者さんに起こるものではありません。副作用の起こり方には、いくつかの型があります。

1. 副反応

本来治療目的に使うくすりを持っている薬理作用を主作用といい、治療目的以外の効果が出るものを副反応といいます。

例えば、アレルギー薬で眠くなったりするのが副反応です。予測は可能ですので、注意することはできます。

2. 中毒反応

くすりの効果が、薬物血中濃度に依存する場合、治療域と中毒域が近いくすりに発現します。例えば強心剤ジゴキシン、気管支拡張剤テオフィリン、抗てんかん剤フェニトイン等です。薬物血中濃度測定を行なうことにより、使用量を調節することで予防できます。

3. くすりの効きすぎによる副作用

くすりの効果が出すぎる場合です。例えば糖尿病治療薬の低血糖状態による意識障害や、降圧剤により血圧が下がりすぎることもその副作用のうちです。

4. アレルギーや特異体質による副作用

くすりに対して個々の患者さんに発現し、予知は困難です。患者さんの特異体質による場合もあります。くすりに対する感受性が上がり、正常量を服用しても副作用が起こることがあります。

重大なものとしてはアナフィラキシー・ショック、中毒性表皮壊死症、薬剤性肝機能障害、間質性肺炎等があります。

これらの副作用を防ぐにはどうしたらよいのでしょうか。くすりの説明書には重大な副作用についての自覚症状が具体的に書かれています。これらの症状があった場合でも副作用でなく、病気そのものの症状である場合もあります。自己判断でくすりを中止すると更に病気を悪化させる場合がありますので注意して下さい。ではどのような時にくすりの副作用が疑われるのでしょうか？

自覚症状として発疹、発熱、悪心、嘔吐、頭痛、咳、下痢、かゆみ、しびれ、めまい、動悸、手足の振るえ、呼吸困難、浮腫、紅潮、腹痛等です。特に発疹、発熱、悪心、嘔吐、頭痛等はくすりの副作用の可能性ががあります。

「体の調子がいつもと違うな？」「くすりによる副作用かな？」と感じたら早めに医師、薬剤師にご相談下さい。



薬剤部 松浦 功文